



Team Dainan

八千代市立大和田南小学校
《校長室だより》
令和3年度 第17号
令和3年 7月12日

酪農は、無限ループだ！ ～ 3年生 モーモースクール ①～



給食には、毎回牛乳が出ます。この牛乳は、どのような過程を経て作られているかご存知ですか。3年生の社会科では、地域に見られる生産や販売の仕事について学習します。そこで、本校では、毎日の給食にも出てくる牛乳に焦点を当て、学習していくこととしました。

今回ゲストティーチャーとしてお招きした方は、八千代市内で酪農を営んでいる加茂さんです。加茂さんは、以前小学校の先生をしていましたが、現在は、家業の酪農家を継承しています。現在、140頭ほどの牛を飼育しており、市内で2番目の規模を誇っているそうです。

さて、千葉県は日本の酪農発祥の地と言われています。8代将軍徳川吉宗の時代、インドの白牛3頭を輸入し、それを繁殖させ、乳製品を作ったことが始まりとされています。現在でも全国第5位の生乳生産量を誇っています。

八千代市も主要な生乳生産地の一つです。八千代市の酪農は、昭和初期に乳業会社系列の牧場が東京から移転してきたことから始まったようです。理由は、①比較的広大な土地が確保できること ②出荷するための交通の便がよかったこと などから八千代が選ばれたようです。そのため、多くの牧場は、成田街道沿い(国道296号線)や八千代台、吉橋・高本地区にありました。

大和田南小が開校する10年前の昭和37年には200軒近い牧場がありましたが、その後、①牧場周辺の急激な都市化 ②後継者の不足 ③生乳価格の低迷などの理由により徐々に減少していきました。現在八千代市の酪農家は、13件だそうです。生き残りをかけ、新たな場所に移転し、さまざまな工夫をしながら経営を続けている牧場もあります。以前と比べればずいぶん減少してしまいましたが、都市化が進んだ市町村で13件も残っているのは珍しいそうです。

加茂さんは、お話の最後に「牛乳や牛のすばらしさをもっと多くの人に伝えてほしい。」というミッションを子供たちに投げかけてくださいました。

3年生は、これまでにESDの視点でもの事を多面的にみる学習をし「ESD めがね」というアイテムを手に入れました。この「ESD めがね」を通して酪農の仕事を見てみるとSDGs17の目標との関連に気づいていきます。

加茂さんからお話を聞いた後の授業では、子供たちから「牛や酪農家さん仕事について調べたい」「牛がSDGsに役立っていることについて調べたい」「牛乳そのものについて調べたい」など多様な意見が出てきました。

私たちが生きている今の時代、そして子供たちが生きていくこれからの時代は、「正解」のない時代です。その時代に生きる人たちが、互いに納得のできる答えを見つけるため、考えをすり合わせていかなければなりません。

今後子供たちは、加茂さんからのミッションを達成するために、自ら学習の方向を見定めて学びを深めていくことでしょう。

